

到来を告げる水飛沫を浴びて
どこまでも響く声を
降り注ぐまま撃ち合って

乾き始めている　カラカラ
次第に延びていく夜　高くなる空　痛む首
実りはすぐに種を撒く準備をしている
眺めて繰り返し相槌
退屈の誘惑

名も知らぬ花をかき分けて霧になる
雫飛び散っていく残骸
足音に気付く
言葉はもう用を為しはしない
進め　落ちていくその前に

到来を告げる水飛沫を浴びて
虹映える断崖を上るなら千里掻い潜くぐって
東西を駆ける陽の光写せば
掠れた喉も潤してくれないか
涸れ果てぬように
紅の道を行く

削る　削る
長い時を越え
深く　深く
穿ちまた流れ出す
秋が満ちる
冷えていく感覚

何を象かたどった
待ちわびたこの気配

到来を告げる水飛沫を浴びて
霞み掛かる絶壁を上るなら万里矢を放はなって
東西を駆ける陽の光写せば
掠れた喉もまだ吠えられるかな　崩れる
開く傘は道理を弾いていく　紅の道を行く
枯れ果てぬように